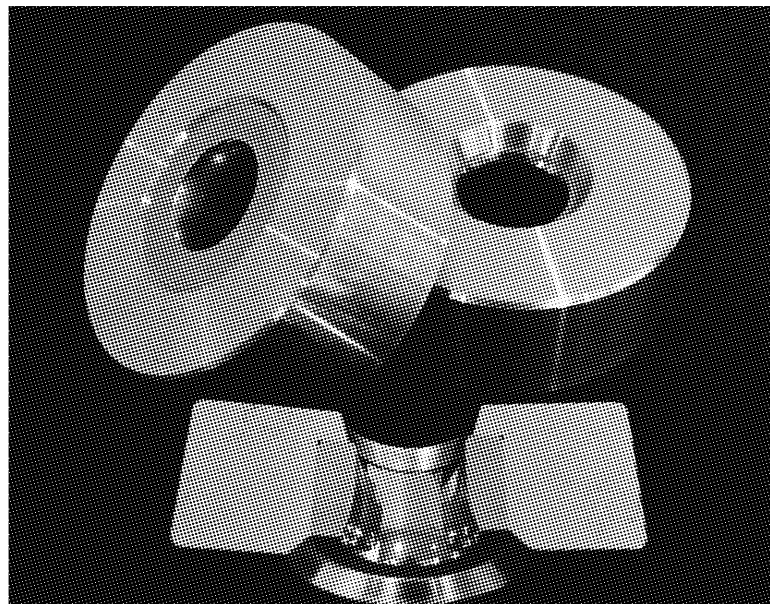


サステナ チェーン

富士ダイスはモノづくりに必要な超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売を手がける。国内の超硬耐摩耗工具業界で長きにわたってトップシェアを堅持。業界シェア30%以上を誇る。そんな同社は2026年度を最終年度とする3カ年の中期経営計画で重要施策の一つに「新規事業の確立」を掲げている。限りある資源を国内で循環させるため、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指している。

◇ 超硬合金製の工具や金型は、タングステンやコバルトといった産出地が偏在するレアメタル（希少金属）を主原料とする。偏在性が高いにもかかわらず、超硬

富士ダイス



リサイクルしている超硬耐摩耗工具・金型の一例

合金ゆえの割れにくさや接着剤などの除去に手間がかかることなどを理由に、国内ではこれまで使用済みの工具・金型をリサイクルする仕組みが確立されていなかった。製品の国内シェアが高いため、回収を試験的に始めた。現在は回収、使用済み工具の回収、協力会社による破碎まで一連のサイクルを構築し、一部で運用を始めた。

そこで、同社は自社製、他社製問わず、使用済み工具・金型を国内の顧客先から回収し、国内で再度工具・金型にするスキーム作りを開始。25年10月か

超硬合金を循環 工具・金型回収し再生

―業界の現況は。

「中国の輸出規制強化により、タングステンを含む重要鉱物の需給や価格に影響が及びやすい状況が続いている。当社としては現時点で計画通りの生産と出荷を行っている。当社の金型や工具は基幹産業の自動車業界をはじめ、さまざまな業界で採用されており、持続可能な供給体制の維持に努めたい」

―安定したサプライチェーン（供給網）を実現するためには。

「海外サプライヤーなど視野を広く調達する必要がある。調達先となる原料粉末メーカーを増やすため、国内に限定せず、欧州や米国、インドを含め粉末の評価を進めている」

―今後の方向性は。

「超硬合金の研究は今後も進める。省タングステン・コバルト合金『サステロイ』のシリーズ化も着々と進める。タングステンとコバルトを含まない合金を開発するダイジェット工業とは、販路拡大に向けた業務提携の検討も始めた。これらの取り組みにより、持続的に供給していきたい」

「視野」広げ供給網を維持



取締役技術開発本部長

篠宮 護氏

「脱炭素・循環型社会へ、タングステンとコバルトの含有量を約9割削減し、26年度に3000万円程度の新合金「サステロイS」の売り上げを目指している。汎用の超硬合金に比して、TN30」を市場投入した。引き合いが強いことから、（山谷逸平）

【会社概要】▷所在地＝東京都大田区下丸子2の17の10▷代表者＝春田善和社長
▷事業内容＝超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売